

科目名	生涯発達人間学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 幼稚園教諭一種免許状 / 認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	生涯発達人間学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 幼稚園教諭一種免許状 / 認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	生涯発達人間学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 幼稚園教諭一種免許状 / 認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間生活学部児童幼児教育学科児童教育専攻及び食物栄養学科の3・4年次を対象とした、学部専門科目(共通科目)(選択)である。

科目の概要

人は生まれてから死ぬまで生涯を通じて発達していく存在であるという生涯発達の観点から、人の一生の各時期の特徴を学ぶ。特に、加速する少子高齢化に焦点を当てて、人生の最初期である乳幼児期と65歳以上の高齢期における、心身のさまざまな特徴や生じうる問題点を学び、他者への援助のあり方を含めた人間についての理解を深める。

学修目標

毎回、授業の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

各発達時期の特徴及びそこで生じうる問題点について、各自が概観しまとめることができるようにする。

内容

1	生涯発達とは
2	乳児期 1
3	乳児期 2
4	幼児期 1
5	幼児期 2
6	幼児期 3
7	児童期
8	前半のまとめ
9	思春期
10	青年期
11	成人期
12	高齢期 1
13	高齢期 2
14	高齢期 3
15	まとめ

評価

毎回のリアクションペーパー30点、期末筆記試験70点で評価を行う。60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【推薦書】内田伸子編「よくわかる乳幼児心理学」ミネルヴァ書房

伊藤亜矢子編「エピソードでつかむ児童心理学」ミネルヴァ書房

白井利明編「よくわかる青年心理学」ミネルヴァ書房

大川一郎他編「エピソードでつかむ老年心理学」ミネルヴァ書房

科目名	児童学概論		
担当教員名	坪倉 紀代子、赤井 美智子、大宮 明子、平田 智久 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学部専門科目であり、人間生活学部各学科に共通する課題について探求する科目の一つに位置づけられている。幼児教育学科の学生には、卒業必修科目であり、他学科の学生には選択科目となっている。自分の目指す専門領域を「子ども」という視点から問い直し、新たに位置付ける可能性をそれぞれ模索してほしい。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は“文化について考える”というテーマをもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと文化」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探求する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容をつかみ、ノートにまとめを整理する。

内容

1	野口：科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明
2	横井：「文化の違い」とは何か
3	赤井：「外遊び文化について考える」
4	山田：「子どもに伝えたい伝承遊び ～鬼ごっこを中心に～」
5	上垣内：「生活文化と子どもの遊びのリアリティ」
6	鈴木：「面白味の文化 子ども時代の絵本とおとな時代の絵本」
7	平田：「造形の立場から・・・乳幼児の異文化性」
8	長田：「子どもの目から見た世界：子どもにとっての文化」
9	大宮：「幼児とメディア：幼児はテレビゲームから何を学ぶのか？」
10	向井：「乳児期の親子関係から文化について考えてみる」
11	斎藤：「喫煙とは昔は文化、現在は病気に」
12	金勝：「家庭における音楽文化」
13	坪倉：「“からだと運動”を巡る文化について」
14	野口：「子どもと文化について考える」まとめ
15	試験

評価

各担当教員の課題への取組み(50%) 試験(50%)

合格点に満たなかった場合には「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書を紹介や資料の配布を行う予定です。

科目名	青年心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起こるのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。青年期の最中にある受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ、自ら考える契機と成ることを目標とする。

内容

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究方法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60点+中間テスト30点+授業内の課題10点とする。60点以上を合格とし、達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子、赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間生活学部児童幼児教育学科児童教育専攻(3年次)・食物栄養学科(3年次)・人間福祉学科(3年次)の学部専門科目(選択)である。

科目の概要

この科目では、講義形式で思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶと共に、青年期にある履修者自身の自己理解を深めるためにワークを行う。

学修目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解する
2. 自己理解を深める
3. 物事を感じる力とそれを文章で表現する力を磨く

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味
2	ワーク1：青年期にある「私」に注目
3	青年期の認知発達
4	青年期の身体発達と心の発達
5	青年期の家族関係
6	青年期の友人関係
7	青年期の恋愛関係
8	前半のまとめ
9	就職とキャリア設計
10	青年と文化
11	青年期の臨床的な課題1
12	ワーク2：表現活動を媒介とした自己理解と他者理解
13	青年期の臨床的な課題2
14	青年期と精神疾患
15	まとめ

評価

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題20点、期末試験50点で、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】授業中指示する。資料は適宜配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	老年学概論		
担当教員名	野島 靖子、横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

加齢現象のもたらす個人的、社会的な意義を把握する。

高齢者をとりまく社会状況について理解する。

高齢社会の進展の中で高齢者福祉の意義と概要を学習する。高齢者を取り巻く社会的状況を理解し、高齢者福祉制度について学ぶ。

内容

少子高齢社会の到来と意義について

加齢に伴う心身の状態の変化とその意味

高齢者家族の変容について

地域社会と扶養機能の変化について

経済生活と年金について

就労と社会参加について

介護問題と社会福祉サービスについて

まとめ

評価

レポートで30点、試験で70点とする。

試験、レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】改訂『新選 一部改訂 高齢者福祉論』 みらい

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします。

内容

1.家庭支援の意義と役割

- (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
- (2) 家庭支援の必要性 (第2回)

2.家庭生活を取り巻く社会的状況

- (1) 子育てするとは? (第3回)
- (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第4回)
- (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス (第5回)

3.子育て支援課程の支援体制

- (1) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (第6回)

4.多様な支援の展開と関係機関との連携

- (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第7回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第8回)
- (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 乳児院での実践例 (第9回)
 - 保健所での実践例 (第10回)
 - 児童相談所の実践例 (第11回)
- (3) 子育て支援機関との連携 (第12回)
- (4) 様々な子育て支援事業
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)

5.他の国の子育て支援事業について (第14回)

6.まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします。

内容

1.家庭支援の意義と役割

- (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
- (2) 家庭支援の必要性 (第2回)

2.家庭生活を取り巻く社会的状況

- (1) 子育てするとは? (第3回)
- (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第4回)
- (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス (第5回)

3.子育て支援課程の支援体制

- (1) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (第6回)

4.多様な支援の展開と関係機関との連携

- (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第7回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第8回)
- (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 乳児院での実践例 (第9回)
 - 保健所での実践例 (第10回)
 - 児童相談所の実践例 (第11回)
- (3) 子育て支援機関との連携 (第12回)
- (4) 様々な子育て支援事業
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)

5.他の国の子育て支援事業について (第14回)

6.まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	家族関係論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族関係における周期的な変化と時代的な変化を、実証的に読み解く力を習得する。

内容

1	ガイダンス - 家族の捉え方
2	家族のかたち - 1 . 核家族の二面性
3	家族のかたち - 2 . 家族の種類と分類
4	家族のかたち - 3 . 家族形態の変化
5	結婚と家族形成 - 1 . 異性交際
6	結婚と家族形成 - 2 . 配偶者選択
7	結婚と家族形成 - 3 . 結婚のかたち
8	結婚と家族形成 - 4 . 結婚の変化
9	発達する家族 - 1 . 家族のライフサイクル
10	発達する家族 - 2 . ライフサイクルの変化
11	発達する家族 - 3 . ライフコースと世代
12	家族のライフステージと発達課題 - 1 . 夫婦関係
13	家族のライフステージと発達課題 - 2 . 前期親子関係
14	家族のライフステージと発達課題 - 3 . 後期親子関係
15	総括

評価

学期末のペーパー試験(70%)と授業時の課題(30%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』NHKブックス、2008。

野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009。

科目名	人間生命科学		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. ねらい

科目の性格：科学的素養としての基礎生命科学の初歩や、生命体としての人体の構成と特性を学ぶ。近年目覚ましい発展を遂げてきたバイオサイエンスに親しみ、“生命とは何か”という永遠のテーマについて思索する上でも不可欠な、物質生化学や代謝生化学の基本的な知識・理解を充実させるとともに、簡単な医化学的知識を身につけることもめざす。生体機械論に対する拒絶や偏見を取り除くこともねらいとする。

科目の概要：生命とは何か”という永遠のテーマについて現代的観点から思索する上で必要な科学的素養としての基礎生命科学の初歩や、生命体としての人体の構成と特性等を学ぶ。

学修目標：科目の概要と以下の目標と講義計画を確認し、教科書を事前によく読んだ上で授業に臨み、講義内容をよく理解することをめざす。ノートやチェック項目を整理して事後学習を心がけ、反復学習により基本事項・重要事項がよく身に付くようにする。

1. 細胞が生命の基本単位であることを理解する。
2. 細胞はタンパク質の働きで構築され、機能することを理解する。
3. DNA makes RNA makes Protin makes Cell makes Lifeという流れを理解する。
4. 現代の生命科学の諸課題について概要を理解する。

内容

2. 内容

1. 生命とは何か：人間生活 = じんかんいきいき
2. 生物の本質的屬性
3. 生命の基本単位：細胞
4. 生命の基本単位：細胞
5. 生命と生体の秩序
- 6~8. タンパク質の存在様式としての生命：ミクロの機械としてのタンパク質、そのエネルギー源としてのATPの重要性 ~
- 9~11. 遺伝子はタンパク質の設計図：遺伝子の実体とその発現 ~
12. 生きることは栄養すること：なぜ人間は他の生命体を食べるのか
- 13~14. エネルギー-栄養素は体内では燃えない：どうやってATPをつくり、酸素を利用するのか ~
15. 再び生命とは何か：地球環境・人間と生命

評価

3. 評価

レポート3割(30%) 筆記試験7割(70%) 60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】木下勉・小林秀明・浅賀宏昭 『ZEROからの生命科学』 南山堂

【推薦書】石田均・板倉弘重・志村二三夫・田中清(編著) 『臨床医科学入門』 光生館 492/R、

横越英彦（編著） 『代謝栄養学』 同文書院 498.5/Y、

五十嵐脩・志村二三夫（編著） 『生化学』 光生館 491.4/S

科目名	人間環境学		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間を生活者として捉え、環境を生活を取り巻くものとして押さえ、様々な視点から今日的課題や今後の方向を探り、一人ひとりが自分の生き方について考えていくことをねらう。

内容

大きく次の3点で問題や課題を取り上げ、講義だけでなくできるだけ具体的に資料や視聴覚教材、演習を加え自分の考えを持てるようにする。

- (1) 自然環境・・・ 人間の生きる地球 水の惑星と生物誕生 大気役割
- (2) 社会事象・・・ 衣生活と環境 食生活と環境 住生活と環境 生活を取り巻く消費
生活を取り巻くゴミ問題 消費者問題を考える サステイナブルな社会へ
- (3) 関わりあう人間・・・ 生活を共にする人々 女性としての生き方 子どもの権利
ワーク&ライフバランス まとめ

(1) では水や空気等身近すぎて日頃気づきにくい課題を取り上げ (2) では消費者としての生活や人々の抱える問題、これからの生活者としての視点 (3) では現代の家族や子どもの問題も取り上げ、今後の自分の生き方を考える機会の一つにと考える。

評価

3回の小論文45%、試験55%等で総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書はなしで自作資料や視聴覚教材を用いる予定。推薦図書等は授業の中で紹介する。

科目名	教育人間学		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活学部における学部専門科目(学部における共通科目)として開講します。ヒトが長い歴史の中で身につけてきた子育ての文化に学ぶ科目です。

学校教育が開始される以前の日本の社会で、長い時間をかけて洗練されてきた子育ての習俗について学びます。

テキストを読み、課題を発見し、仲間同士で話し合うことができるようになる、グループごとに一つの課題について研究することができる、研究結果を発表し、受講生同士が互いに内容を深めあうことができる、ということをねらいとします。

内容

以下の項目を取り上げます(順不同)。

1. 人間らしさとは何か
 - 1) 生物と子育て
 - 2) 人間の可能性について
 - 3) 人間の生命力
2. 人間らしさを伝える方法
 - 1) 書物のない社会
 - 2) 一人前
 - 3) 習俗としての子育て
3. これからの時代の生き方と子育て
 - 1) 教えること
 - 2) 学ぶこと
 - 3) 生き抜くこと
4. 公教育の考え方
 - 1) 公とはどういうことか
 - 2) 学校づくり
 - 3) 地域と学校の関わり
5. 子育てのとらえ直し
 - 1) 子どもと自然
 - 2) 子育ての習俗に学ぶ
 - 3) 身体と表現

評価

各回ごとの課題作成(30%)、口頭発表(30%)、グループでの話し合い(40%)を総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 大田堯著『学力とは何か』岩波新書 大藤ゆき『子育ての民俗 一人前に育てる』草土文化 宮本常一『家郷の訓』岩波文庫 網野善彦『日本の歴史をよみなおす』ちくま学芸文庫

【参考図書】 細谷俊夫、河野重男、奥田真丈、今野喜清編『新教育学大事典』第一法規 悔悟宗臣監修『日本近代教育史事典』平凡社 大田堯、中内敏夫、民間教育史料研究会編『民間教育史研究事典』評論社

科目名	人間栄養学概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人の栄養の有り方は、日常的なので簡単に見えるが、実は非常に複雑である。人に親切にすると、感謝をする人、放っておいてくれと有難迷惑に思う人、様々である。人の栄養学も、人の心のように複雑である。最後には、自分で解決する力をもたなくてはならないであろう。人の栄養学は、どうあるべきかについて考える糸口となることを目指したい。

科目の概要

日常的な話題を取り上げ、人の栄養がどうあるべきかを考える。

学習目標

人間の栄養学について考えるトレーニングの場としたい。そのために、自由な発言を期待する。

内容

各回の講義テーマは順序が変わる可能性があります、2週間前には連絡いたします。

1	旨味とは何だろう？健康と関係あるだろうか？
2	食塩を食べない地域があるらしいが？私たちが摂取する食塩の意味は？
3	男女の嗜好に差はあるか？男は辛党、女は甘党？
4	イルカを食べるのは野蛮？ 食文化を考える。
5	名著「肉食の思想、草食の思想」から草食系男子を考える。
6	米はからだにいいのだろうか？
7	エネルギーって何だろう？米はどうして体脂肪になるのだろうか？
8	脂肪は体の敵か味方か？美貌と脂肪
9	日本人の食生活は欧米化したか？
10	世界の学校給食の現状は？
11	食べ物の消化・吸収率は？ウンチ、おしっこを栄養学的に見る。
12	スポーツ選手はタンパク質を余分にとったほうがいい？
13	お茶は水より健康にいいか？
14	体型と健康。美しい体型とは？男性の好む女性の体型は？
15	まとめ

評価

テストと授業の参加度で評価する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない

科目名	人間栄養学概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「何をどのように食べるのか」という食行動が、身体づくりや健康状態にどのような影響を及ぼすのかを理解するために必要な栄養学を学んでいきます。乳・幼児期から高齢期にわたる様々なライフステージの人間を学びの対象とする人間生活学部の学生にとって、健康な身体づくりをすすめるための基本となる「栄養」や「食事のあり方」を理解することは、大変重要です。

講義では、栄養素や消化・吸収・代謝システムなど栄養学の基礎を学ぶだけでなく、食品や食事レベルでの身体づくりを理解し、ライフステージや疾患との関連などについても学習していきます。

学修目標は、あらゆる世代の人間が、生きるために食べ続ける意義を理解することができる より健康な身体づくりのために、「食」を選択する知識を得ることができる の2点です。

内容

1	栄養の基本概念 ~ 栄養素と栄養 ~
2	栄養の基本概念 ~ 消化・吸収・代謝 ~
3	現代の健康・栄養問題 ~ 過剰と欠乏 ~
4	主食の栄養学 ~ 糖質 ~
5	主菜の栄養学 ~ たんぱく質 ~
6	主菜の栄養学 ~ 脂質 ~
7	副菜や果物の栄養学 ~ ビタミン ~
8	副菜や果物の栄養学 ~ 食物繊維 ~
9	乳・乳製品と水 ~ ミネラルと水分 ~
10	食事と運動のバランス ~ エネルギー代謝 ~
11	成長と栄養
12	加齢と栄養
13	生活習慣病と食行動 ~ 肥満、糖尿病、脂質異常症 ~
14	生活習慣病と食行動 ~ 骨粗鬆症、貧血、やせ ~
15	まとめ

評価

学則にしたがって三分の二以上出席していることで評価を受けることができます。レポート30点、ミニテスト20点、最終試験50点とし、トータル60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池本真二、稲山貴代 編著 [食事と健康の科学] 建帛社

【推薦書】吉田勉 編 [よくわかる栄養学] 三共出版

【推薦書】林寛 著 〔栄養学総論〕三共出版

科目名	健康科学概論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

わが国は先進国として、少子高齢化が社会問題となっており、平均寿命は世界一になりましたが寝たきりの老人は増えております。高齢化と共に、生活習慣病が国民の健康をむしばむようになってきました。生活習慣病には、糖尿病、痛風、肥満、心筋梗塞、脳梗塞、がんなどがありますが、これらの病気の原因、検査、治療を理解することが必要です。その他の病気についても勉強し、幅広い知識を身につけましょう。この講座で、疾病についての基本的な知識を身につけ、自分自身や家族の健康に役立つ知識を習得できます。

内容

1	病気・医療・検査について
2	循環器疾患
3	呼吸器疾患
4	消化器疾患
5	肝・胆道・膵疾患
6	腎・尿路系疾患
7	血液・造血器疾患
8	内分泌疾患
9	精神・神経・筋・骨の疾患
10	糖尿病と脂質異常症・痛風
11	自己免疫疾患・膠原病
12	感染症
13	女性生殖器疾患・臓器移植
14	まとめ1
15	まとめ2

評価

課題の口頭発表(30%)、レポート(20%)、試験(50%)で、三分の二以上(10回以上)出席することで評価を受けることができます。合格点に満たなかった場合は、原則として再試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 森 三樹雄編 『やさしい臨床検査』 南山堂 2008

科目名	食文化人類学		
担当教員名	沢野 勉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界各地には、さまざまな食べものがあり、それぞれ食習慣も異なっている。本講では食を文化の視点で捉えて、各地の食べもの、食習慣、食作法などを比較・考察する。食生活は気候・風土、生産条件、経済などの影響を受けるのは当然だが、これは同時に、その地域の人びとの自然観、宗教、文学や芸術の世界とも深く結びついている。食と人間と社会の関係を広い視野で見つめて、いろいろなジャンルの話題を探して、食の課題を考えていくのが本講のねらいである。

内容

1. 食文化人類学と学習の意義；文化と文明 / culture、agriculture、viticulture / 文化人類学の諸分野と食文化人類学の位置づけ
2. 風土と食物；アジアモンスーン地帯の特性 / 和辻哲郎『風土』の問題提起 / 「湿」の文化と「乾」の文化 / わび・さびの自然観 / 「水に流す」と「湯水のように」 / 生在蘇州、住在杭州、衣在上海、食在広州、死在柳州 / ベトナムのフランスパン - 植民地支配と食
3. 食の思想と肉・魚；森の民と豚 - ドイツでのヴルストの発達 / グリム童話にみる食 / 羊の家畜化と遊牧民の生活 / 日本人と魚食 / 宗教と食物禁忌 / イスラム教の豚とヒンズー教の牛 / 仏教と食
4. 日本人と米；宮澤賢治『雨ニモマケズ』に見る米 / 粉食と粉食と食の規制 / しゃもじ権と女性の地位 / 麹文化の発展と微生物工業
5. 日本における東西の食文化；サケ圏とブリ圏 / 食塩摂取の地域差 / 土用のうなぎと牛肉 / ラーメンのだしの地域差 / 丸餅と切餅 / 納豆と豆腐
6. 食の道具と食作法；箸食と手食 / パスタとフォーク / 日本の食卓での匙の欠落 / 食器の個用と共用 / 箱膳の知恵 / 食卓でのDIY
7. 食のことばと表現；食べものの雅称と忌みことば / ことわざにみる食生活の知恵 / ネーミング考

評価

レポートにより評価。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキストは使用せず、主としてノートによる。参考書は随時紹介する。関係用語のプリント配布。

科目名	男女共同参画論		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 全学共通科目 十文字学A「女性を学ぶ」の1科目で、選択必修

2 現代社会では、女性にとって職業をどのように考えるかは重要なテーマです。社会人につながる大学教育において、特に女子大学ではこのテーマを学習の中心とすることが最近では多くなっています。多様な、また長期的な職業生活が予想される未来を想定し、職業にかかわる知識をもち、職業支援や子育て支援の様々な制度を知ることから、未来へはばたくイメージ形成を行い、自らのプランをつくる力を養うことにつなげる。

3 現代の動きをとらえるためにビデオなどを活用。グループワークなども実施する予定。

内容

1回 わたしの10年後は・キャリア・ライフのイメージ

2 - 3回 「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」に見る活躍する女性たち
・ライフサイクル論

4 - 5回 広がる女性の職業進出
・長期化と多様な働き方
・職種の拡大、地位の拡大

6 回 チャレンジする女性たち

7 - 8回 仕事に関わる社会制度・子育て支援
・均等法、子育て支援制度

9 回 社会人基礎力ー望まれる能力とは

10 - 12回 企業の変化
・ファミリーフレンドリー企業とは

13回 家庭生活と職業
イクメンプロジェクト、ワーク・ライフバランス

14 - 15回 女性たちのキャリア形成

評価

レポート60点、授業への参加度30点、報告10点 により合計100点とする。

60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「日経ウーマン」他、授業時に紹介する。

科目名	男女共同参画論		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

詩人のゲーテは、「バラを見たら詩を書け、リンゴを見たらかじりつけ」(「ファウスト」)と語った。彼にとって女性とは<バラやリンゴ>のように、その美しさをめでるものでもあり、また芸術や命の源泉だった。日本の江戸時代の女訓書『女大学』には、女性は<和順・貞信>であれと、説いている。21世紀の現代女性たちは、それぞれの個性に従いつつも、どう未来予想図を設計していったらよいのだろう。世界と日本の様々な芸術的な創造をした女性たちをふりかえり、彼女たちが時代といかに格闘しあるいは調和し、個性を輝かせていったかを学んでゆきたい。

古今東西の文学者のみならず、さまざまなジャンルにわたる女性の芸術家を対象とする。それぞれの女性たちが生きた時代の社会通念や、時代精神、歴史的背景などもあわせて考えてゆきたい。

最終的には、さまざまな過去の女性たちの生き方の中から、自分の理想とする女性観を見出していきたい。あわせて、他の女性あり方や世代間の理解を深め、芸術作品を楽しみながら学んでゆきたい。

内容

1	<序 未来予想図のなかの理想の女性観> 浮世絵の中の女性たち
2	日本の江戸時代の女性観(『女大学宝箱』と中国の女訓書)
3	西洋と現代日本の女性観(若桑みどり『お姫様とジェンダー』他)
4	【芸術に生きる】西洋の女性のデザイナー(ココシャネルの生き方)
5	現代日本の芸術家(ピアニストのフジ子ヘミング)
6	【文学に生きる】西洋の小説家(モンゴメリー『赤毛のアン』)
7	カナダの大自然と女流作家の人生
8	日本の江戸時代の女流俳人(芭蕉の弟子の園女)
9	松尾芭蕉の女性観
10	日本の江戸時代の儒学者の妻(頼山陽の母)
11	紙芝居「頼山陽の母」
12	【絵画に生きる】日本の近代の女流画家(上村松園)
13	西洋の挿絵画家・童話作家(ターシャ・テューダー)
14	自然とともに生きる
15	まとめ

評価

評価は平常点(20点)とレポート(80点)を合計し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に、教科書は使用しない。毎回、授業の時にプリントを配布する。

【参考文献】石川松太郎編『女大学集』(東洋文庫302、平凡社、1987)

総合女性史研究会『日本女性の歴史』（角川選書237、1993）

若桑みどり『象徴としての女性像』（筑摩書房）

科目名	男女共同参画論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

詩人のゲーテは、「バラを見たら詩を書け、リンゴをい見たらかじりつけ」(「ファウスト」)と語った。彼にとって女性は<バラやリンゴ>のように、その美しさをめでるものでもあり、また芸術や命の源泉だった。日本の江戸時代の女訓書『女大学』には、女性は<和順・貞信>であれと、説いている。21世紀の現代女性たちは、それぞれの個性に従いつつ、どう未来予想図を設計していったらよいのだろうか。世界と日本の様々な芸術的な創造をした女性たちをふりかえり、彼女たちが時代といかに格闘しあるいは調和し、個性を輝かせていったかを学んでゆきたい。

古今東西の文学者のみならず、さまざまなジャンルにわたる女性の芸術家を対象とする。それぞれの女性たちが生きた時代の社会通念や、時代精神、歴史的背景などもあわせて考えてゆきたい。

最終的には、さまざまな過去の女性たちの生き方の中から、自分の理想とする女性観を見出していきたい。あわせて、他の女性あり方や世代間の理解を深め、芸術作品を楽しみながら学んでゆきたい。

内容

1	<序 未来予想図のなかの理想の女性観> 浮世絵の中の女性たち
2	日本の江戸時代の女性観(『女大学宝箱』と中国の女訓書)
3	西洋と現代日本の女性観(若桑みどり『お姫様とジェンダー』他)
4	【芸術に生きる】西洋の女性のデザイナー(ココシャネルの生き方)
5	現代日本の芸術家(ピアニストのフジ子ヘミング)
6	【文学に生きる】西洋の小説家(モンゴメリー『赤毛のアン』)
7	カナダの大自然と女流作家の人生
8	日本の江戸時代の女流俳人(芭蕉の弟子の園女)
9	松尾芭蕉の女性観
10	日本の江戸時代の儒学者の妻(頼山陽の母)
11	紙芝居「頼山陽の母」
12	【絵画に生きる】日本の近代の女流画家(上村松園)
13	西洋の挿絵画家・童話作家(ターシャ・チューダー)
14	自然とともに生きる
15	まとめ

評価

評価は平常点(20点)とレポート(80点)を合計し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に、教科書は使用しない。毎回、授業の時にプリントを配布する。

【参考文献】石川松太郎編『女大学集』(東洋文庫302、平凡社、1987)

総合女性史研究会『日本女性の歴史』（角川選書237、1993）

若桑みどり『象徴としての女性像』（筑摩書房）

科目名	男女共同参画論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学部専門科目・7科目14単位以上履修しなければならないうちの1科目です。

19世紀欧米において女性に認められていた職業は、家庭教師、児童文学の作家、コンパニオンでした。19世紀から20世紀にかけて自立を志向した児童文学作家たち、また彼女たちによって書かれた「少女像」の変化について研究します。

英米加における 1. 女性の役割の変化 2. 子ども観の変化 3. 女性作家の生き方、その作品にみられる少女たちについて研究し21世紀に生きる女性のありようについて考察します。

内容

1	出発点として現代日本における理想とする女性像、少女像
2	イギリスにおける女性史
3	F. H. パーネット
4	『小公女』
5	『秘密の花園』
6	アメリカにおける女性史
7	L. M. オルコット
8	『若草物語』
9	『第2、3、4若草物語』
10	映画『若草物語』
11	カナダにおける女性史
12	L. M. モンゴメリー
13	『赤毛のアン』
14	『赤毛のアン』シリーズ
15	まとめ

評価

授業参加度・出席カードの記載内容30点、課題レポート30点、期末レポート40点で評価し、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しません。プリント、推薦書リストを授業時に配布します。

科目名	男女共同参画論		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

明治時代に生まれた「女学(じょがく)」と、その教育の行く末を、ひとりの女性の生涯を通してながめながら、女性と文学、女性と政治、女性と経済など、日本近代史の各分野と女性との関わりを考察することを目的としています。

カーライスやボルシチで有名なレストラン・新宿中村屋。各地のデパートにも出店して、月餅や煎餅などの贈答用菓子の販売も手がけている、おなじみの老舗は、かつて大正時代から昭和初期にかけて、美術家や作家、俳優、宗教家、政治家などが、文字どおり世界中から集まる「サロン」の場となっていました。その立役者となるのが女将である、相馬黒光です。

没落士族の家庭に育ち、明治の女学校教育を経て、やがて近代のハイカラ文化を一身に背負うことになる彼女の生涯には、巖本善治、島崎藤村、星野天知、国木田独步、内村鑑三、荻原碌山、中村彝(つね)、秋田雨雀、神近市子、頭山満、エロシェンコ、ボース、松井須磨子、etc.....じつに多彩な顔ぶれが関わり、さながら近代日本文化の中継点の観を呈しています。

この黒光の生涯を軸に、幕末から昭和初期にかけての、政治史・文学史・文化史を多角的に論じていきたいと思ひます。

内容

1	プロローグ
2	仙台の明治維新
3	東京の叔母さん
4	上京まで
5	宗教より文学へ
6	新文学運動および浪漫主義
7	『浮雲』の世界
8	文化と資本
9	フェリス退学まで
10	明治女学校
11	にぎやかな生活
12	結婚生活のはじまり
13	開店まで
14	中村屋の商法
15	新宿中村屋

評価

毎回の授業時に提出するリアクション・ペーパー(50%)、学期末レポート(50%)。合計60%以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】相馬黒光『黙移 相馬黒光自伝』（平凡社ライブラリー）、宇佐美承『新宿中村屋相馬黒光』（集英社）、白井吉見『安曇野』（筑摩書房）

科目名	男女共同参画論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

学部専門科目のうち、テーマ別の選択科目 女性の地位向上、男女共同参画の推進という国際的課題への取り組みによって、わが国の女性たちの働き方はおおきく変化した。なかでも、女性たちが自ら事業を起こすという活動は、様々な意味でオルタナティブな提案を含み、注目を集めてきた。先進国における女性の起業動向や発展途上国における所得創出事業も視野におきながら、現代社会における起業を通じて女性の働き方を検討する。事例検討を重視し、履修者が分担して発表・報告を行なうようにする。能動的・主体的な履修者を歓迎する。現代の多様な働き方を理解し、自らの職業選択を確かなものとする知識を得る。

内容

1	労働・職業観の歴史的変化
2	働き方の多様化と現代の課題
3	起業が社会的関心となった社会的状況
4	わが国における起業の動向
5	事例検討1：生活ニーズからの起業
6	事例検討2：生活技術とビジネスチャンス
7	事例検討3：家族自営における経営参画
8	事例検討4：地域振興・地域間交流への貢献
9	事例検討5：ボランティアから持続的事业へ
10	事例検討6：福祉的事业の展開 - ミッションとプロフィット
11	起業の現状と課題
12	起業を支援する施策・制度
13	起業のネットワークおよび高齢者・学生・障害者による起業
14	事業が実現するもの - オルタナティブなマネジメント
15	レポートの発表と講評

評価

事例発表への参加態度（20点）、期末レポート（80点）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：金森トシエ・天野正子・藤原房子・久場嬉子『女性ニューワーク論』有斐閣、1989 366.35/J
地域社会計画センター編『農村の女性起業家たち』家の光協会、1994 611.7/C
岩崎由美子・宮城道子編著『成功する農村女性起業』家の光協会、2001 611.7/S
赤松良子『均等法をつくる』勁草書房、2003

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

本科目は、学部専門科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

- 1 オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
- 2 オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
- 3 インターネットと電子メール
- 4 ワードプロソフトの基本操作1（文書の作成と管理）
- 5 ワードプロソフトの基本操作2（文書の編集機能）
- 6 ワードプロソフトの応用操作1（表やグラフを挿入した文書の作成）
- 7 ワードプロソフトの応用操作2（ビジュアルな文書の作成）
- 8 論文・レポートの書き方1（読みやすいレイアウトの長文作成）
- 9 論文・レポートの書き方2（長文の編集と加工）
- 10 プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
- 11 プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
- 12 プレゼンテーションの実施
- 13 総合課題演習（文書作成）
- 14 総合課題演習（レポート作成）
- 15 まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「情報処理の基礎—十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト—」 日経B P社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	福島 亜理子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

- ・学内の情報環境を理解し、利用できる。
- ・インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。
- ・文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。
- ・プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

- 01．オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
- 02．オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
- 03．インターネットと電子メール
- 04．ワープロソフトの基本操作(文書の作成と管理)
- 05．ワープロソフトの基本操作(文書の編集機能)
- 06．ワープロソフトの応用操作(表やグラフを挿入した文書の作成)
- 07．ワープロソフトの応用操作(ビジュアルな文書の作成)
- 08．論文・レポートの書き方(読みやすいレイアウトの長文作成)
- 09．論文・レポートの書き方(長文の編集と加工)
- 10．プレゼンテーションソフトの基本操作(プレゼンテーション資料の作成)
- 11．プレゼンテーションソフトの応用操作(効果的なプレゼンテーション資料の作成)
- 12．プレゼンテーションの実施
- 13．総合課題演習(文書作成)
- 14．総合課題演習(レポート作成)
- 15．まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。

(全学共通のテキストを使います。後日書名などお知らせします。)

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、必修で開講されるコンピュータ演習の基礎になる授業です。この科目の後にある、マルチメディア活用 につなげていきます。

この講座は、Office2007対応のWindows Vistaを使用し、Word、Excel、Power Pointが活用できるように、実習をしながら学修します。

学修目標は、今日の社会に不可欠となったコンピュータについて実習をしながら学びます。現在では、ほとんどの学生が、高等学校までにパソコンの授業を受講してきていますが、パソコンをただ”使える”ということではなく、”いかに活用できるか”ということが必要になってきます。そのために必要な技術を自分のものにしていただくため、技能を伸ばしていきます。

1.基本的な操作方法を習得。2.レポート提出に困らない技術を習得。3.必要な情報を収集し、まとめる力を養う。これらを目標に基礎を着実に身につけていきましょう。

内容

1	機器の使用法と簡単な入力練習
2	パソコンの基本操作 ウィンドウ操作、文章の入力、電子メール操作
3	文書入力 書式の設定、フォーマット、保存の仕方
4	細かい入力操作の反復、ワードアート・クリップアートの活用
5	文書作成(1) 美しい文書を作成する
6	文書作成(2) 罫線・表の入った文書を作成する
7	文書作成(3) ネット検索とペイントと文書作成
8	パワーポイント(1) 資料を作る
9	パワーポイント(2) えんだよりに作る
10	パワーポイント(3) 絵や写真を入れて作品を作る
11	パワーポイント(4) アニメーションを加える
12	エクセルを使ってみる。セルの扱いと表の役割
13	エクセルで計算式をいれた表を作成する
14	エクセルの活用 グラフの作成 シートの扱い
15	まとめ

評価

通常の授業の態度70点 課題70点、学期末のテスト60点、合計が120点以上を合格とする。

その他、演習科目に準じ欠席が3回未満を条件とし、ほぼ毎回与えられる課題が提出期限及び要求水準を満たしていることを条件とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。毎回、プリント教材を配布します。

他に、印刷用紙を用意すること。

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作(文書の作成と管理)
5	ワープロソフトの基本操作(文書の編集機能)
6	ワープロソフトの応用操作(表やグラフを挿入した文書の作成)
7	ワープロソフトの応用操作(ビジュアルな文書の作成)
8	論文・レポートの書き方(読みやすいレイアウトの長文作成)
9	論文・レポートの書き方(長文の編集と加工)
10	プレゼンテーションソフトの基本操作(プレゼンテーション資料の作成)
11	プレゼンテーションソフトの応用操作(効果的なプレゼンテーション資料の作成)
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習(文書作成)
14	総合課題演習(レポート作成)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

「情報処理の基礎」日経BP社

推薦書

佐藤望 編著「アカデミック・スキルズ」慶応義塾大学出版会

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

新カリキュラム「情報処理演習」と同時開講です。

内容

全学共通です

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール(Eメール)
4	ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作 : 文書の作成と管理
5	ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作 : 文書の編集機能
6	ワープロソフト(Microsoft Word)の応用操作 : 表やグラフを挿入した文書の作成
7	ワープロソフト(Microsoft Word)の応用操作 : ビジュアルな文書の作成
8	論文・レポートの書き方 : 読みやすいレイアウトの長文作成
9	論文・レポートの書き方 : 長文の編集と加工
10	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作 : 資料の作成
11	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の応用操作 : 効果的な資料の作成
12	プレゼンテーション(Microsoft PowerPoint)の実施
13	総合課題演習(文書作成)
14	総合課題演習(レポート作成)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

北村俊一・安達一寿・中尾茂子『情報処理の基礎 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト』2011 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作(文書の作成と管理)
5	ワープロソフトの基本操作(文書の編集機能)
6	ワープロソフトの応用操作(表やグラフを挿入した文書の作成)
7	ワープロソフトの応用操作(ビジュアルな文書の作成)
8	論文・レポートの書き方(読みやすいレイアウトの長文作成)
9	論文・レポートの書き方(長文の編集と加工)
10	プレゼンテーションソフトの基本操作(プレゼンテーション資料の作成)
11	プレゼンテーションソフトの応用操作(効果的なプレゼンテーション資料の作成)
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習1(文書作成)
14	総合課題演習2(レポート作成)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	上田 啓子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部専門科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作1（文書の作成と管理）
5	ワープロソフトの基本操作2（文書の編集機能）
6	ワープロソフトの応用操作1（表やグラフを挿入した文書の作成）
7	ワープロソフトの応用操作2（ビジュアルな文書の作成）
8	論文・レポートの書き方1（読みやすいレイアウトの長文作成）
9	論文・レポートの書き方2（長文の編集と加工）
10	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
11	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習1（文書作成）
14	総合課題演習2（レポート作成）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

新カリキュラム「情報処理演習 」と同時開講です。

内容

全学共通です

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール(Eメール)
4	ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作 : 文書の作成と管理
5	ワープロソフト(Microsoft Word)の基本操作 : 文書の編集機能
6	ワープロソフト(Microsoft Word)の応用操作 : 表やグラフを挿入した文書の作成
7	ワープロソフト(Microsoft Word)の応用操作 : ビジュアルな文書の作成
8	論文・レポートの書き方 : 読みやすいレイアウトの長文作成
9	論文・レポートの書き方 : 長文の編集と加工
10	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作 : 資料の作成
11	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の応用操作 : 効果的な資料の作成
12	プレゼンテーション(Microsoft PowerPoint)の実施
13	総合課題演習(文書作成)
14	総合課題演習(レポート作成)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

北村俊一・安達一寿・中尾茂子『情報処理の基礎 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト』2011 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	上田 啓子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部専門科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作1（文書の作成と管理）
5	ワープロソフトの基本操作2（文書の編集機能）
6	ワープロソフトの応用操作1（表やグラフを挿入した文書の作成）
7	ワープロソフトの応用操作2（ビジュアルな文書の作成）
8	論文・レポートの書き方1（読みやすいレイアウトの長文作成）
9	論文・レポートの書き方2（長文の編集と加工）
10	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
11	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習1（文書作成）
14	総合課題演習2（レポート作成）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	和田 義親		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、大学での学習や社会で必要となるコンピュータを中心としたICT活用に関する基礎技術を習得することを目指す。文書作成、プレゼンテーション、インターネット活用などに関する演習を行う。

科目の概要

大学の情報環境の理解、オペレーティングシステムの基本操作、ビジネス文書・論文作成、Web・メールなどインターネットの活用、プレゼンテーションなどを行う。

学修目標

1. 大学の情報環境が利用できる。
2. 用途に応じた文書作成をすることができる。
3. プレゼンテーションの企画から制作、発表を行うことができる。
4. インターネットの適切な利用ができる。

内容

1	大学の情報環境
2	インターネット・電子メール
3	文書作成-文字入力
4	文書作成-編集機能
5	文書作成-レイアウト
6	文書作成-ビジュアル
7	論文・レポートの書き方
8	プレゼンテーションソフトの基本操作
9	プレゼンテーションソフトの応用操作
10	プレゼンテーションの企画・作成
11	基礎課題演習-ビジネス文書
12	基礎課題演習-ビジュアル文書
13	応用課題演習-ソフトの統合利用
14	応用課題演習-データの活用
15	まとめ

評価

テーマ毎の課題の提出物により評価を行い、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】全学共通 情報処理演習用テキスト「情報処理の基礎」日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作（文書の作成と管理）
5	ワープロソフトの基本操作（文書の編集機能）
6	ワープロソフトの応用操作（表やグラフを挿入した文書の作成）
7	ワープロソフトの応用操作（ビジュアルな文書の作成）
8	論文・レポートの書き方（読みやすいレイアウトの長文作成）
9	論文・レポートの書き方（長文の編集と加工）
10	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
11	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習（文書作成）
14	総合課題演習（レポート作成）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	飯高 晶子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作1（文書の作成と管理）
5	ワープロソフトの基本操作2（文書の編集機能）
6	ワープロソフトの応用操作1（表やグラフを挿入した文書の作成）
7	ワープロソフトの応用操作2（ビジュアルな文書の作成）
8	論文・レポートの書き方1（読みやすいレイアウトの長文作成）
9	論文・レポートの書き方2（長文の編集と加工）
10	プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
11	プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習1（文書作成）
14	総合課題演習2（レポート作成）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

【推薦書】授業の中で適宜紹介する

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉） / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

- 1．オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
- 2．オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
- 3．インターネットと電子メール
- 4．ワープロソフトの基本操作（文書の作成と管理）
- 5．ワープロソフトの基本操作（文書の編集機能）
- 6．ワープロソフトの応用操作（表やグラフを挿入した文書の作成）
- 7．ワープロソフトの応用操作（ビジュアルな文書の作成）
- 8．論文・レポートの書き方（読みやすいレイアウトの長文作成）
- 9．論文・レポートの書き方（長文の編集と加工）
- 10．プレゼンテーションソフトの基本操作（プレゼンテーション資料の作成）
- 11．プレゼンテーションソフトの応用操作（効果的なプレゼンテーション資料の作成）
- 12．プレゼンテーションの実施
- 13．総合課題演習（文書作成）
- 14．総合課題演習（レポート作成）
- 15．まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書や参考書は、授業時に指定する。

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主にコンピュータ操作、インターネット、日本語文書処理ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法について学習する。

学修目標

学内の情報環境を理解し、利用できる。

インターネットや電子メールの概念を理解し、利用できる。

文書作成機能を使ってビジネス文書やレポート・論文を作成することができる。

プレゼンテーション資料を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション、コンピュータ操作の基礎、学内の情報環境と利用方法
2	オペレーティングシステムの基本操作とファイル操作
3	インターネットと電子メール
4	ワープロソフトの基本操作1(文書の作成と管理)
5	ワープロソフトの基本操作2(文書の編集機能)
6	ワープロソフトの応用操作1(表やグラフを挿入した文書の作成)
7	ワープロソフトの応用操作2(ビジュアルな文書の作成)
8	論文・レポートの書き方1(読みやすいレイアウトの長文作成)
9	論文・レポートの書き方2(長文の編集と加工)
10	プレゼンテーションソフトの基本操作(プレゼンテーション資料の作成)
11	プレゼンテーションソフトの応用操作(効果的なプレゼンテーション資料の作成)
12	プレゼンテーションの実施
13	総合課題演習1(文書作成)
14	総合課題演習2(レポート作成)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

本科目は、学部専門科目の一つであり、マルチメディア活用 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびW e b ページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表及びグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

W e b ページの仕組みを理解する。

基本的なH T M L タグを使ってW e b ページを作成することができる。

内容

- 1 表計算ソフトの基本操作 1（表の作成と編集）
- 2 表計算ソフトの基本操作 2（数式・関数の利用）
- 3 表計算ソフトの基本操作 3（グラフの作成）
- 4 表計算ソフトの問題演習 1（数式・関数の活用）
- 5 表計算ソフトの問題演習 2（目的に応じたグラフの作成）
- 6 表計算ソフトの応用操作 1（データの並び替えと抽出）
- 7 表計算ソフトの応用操作 2（データの集計と分析）
- 8 W e b ページの作成 1（基本的なH T M L タグの使い方）
- 9 W e b ページの作成 2（画像の配置、リンクの設定）
- 10 W e b ページの作成演習 1（サイトの設計）
- 11 W e b ページの作成演習 2（サイトの作成）
- 12 総合課題演習 1（各種集計表の処理）
- 13 総合課題演習 2（データの整理と分析）
- 14 応用課題演習（ソフトの統合利用）
- 15 まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「情報処理の基礎－十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト」 日経B P社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、マルチメディア活用 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

- ・表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。
- ・表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。
- ・Webページのしくみを理解する。
- ・基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

- 01．表計算ソフトの基本操作（表の作成と編集）
- 02．表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用）
- 03．表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）
- 04．表計算ソフトの問題演習（数式・関数の活用）
- 05．表計算ソフトの問題演習（目的に応じたグラフの作成）
- 06．表計算ソフトの応用操作（データの並べ替えと抽出）
- 07．表計算ソフトの応用操作（データの集計と分析）
- 08．Webページの作成（基本的なHTMLタグの使い方）
- 09．Webページの作成（画像の配置、リンクの設定）
- 10．Webページの作成演習（サイトの設計）
- 11．Webページの作成演習（サイトの作成）
- 12．総合課題演習（各種集計表の処理）
- 13．総合課題演習（データの整理と分析）
- 14．応用課題演習（ソフトの統合利用）
- 15．まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

(全学共通のテキストを使います。後日書名などお知らせします。)

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	和田 義親		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、情報処理演習 の継続として、大学での学習や社会で必要となるコンピュータを中心としたICT活用に関する基礎技術を習得することを目指す。

科目の概要

表計算ソフトの基礎操作、データ活用と処理、基礎的なWebページ作成を行う。また、総合課題演習として、情報処理や情報活用の総合的な技術を身につける。

学修目標

1. 表計算ソフトを利用し、データの処理ができる。
2. Webページのしくみを理解し、制作することができる。
3. 適切なソフトを選択して、情報処理・情報活用ができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作-表作成
2	表計算ソフトの基本操作-数式
3	表計算ソフトの基本操作-関数
4	表計算ソフトの応用問題演習-表の編集
5	表計算ソフトの応用問題演習-グラフ作成
6	データ分析の基礎-並べ替え・抽出
7	データ分析の基礎-応用関数
8	Webページ作成基礎-HTML基礎
9	Webページ作成基礎-HTML応用
10	Webページ作成応用-サイトの設計
11	Webページ作成応用-サイトの制作
12	総合課題演習-各種集計表の処理
13	総合課題演習-データの整理と分析
14	総合課題演習-報告書の作成・サイトのビジュアル化
15	まとめ

評価

テーマ毎の課題の提出物により評価を行い、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】全学共通 情報処理演習用テキスト「情報処理の基礎」日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、マルチメディア活用 (= 情報処理演習)の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

新カリキュラム「情報処理演習 」と同時開講です。

内容

全学共通です

1	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: 表の作成と編集
2	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: 数式・関数の利用
3	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: グラフの作成
4	表計算ソフト(Microsoft Excel)の問題演習	: 数式・関数の活用
5	表計算ソフト(Microsoft Excel)の問題演習	: 目的に応じたグラフの作成
6	表計算ソフト(Microsoft Excel)の応用操作	: データの並べ替えと抽出
7	表計算ソフト(Microsoft Excel)の応用操作	: データの集計と分析
8	Webページの作成	: 基本的なHTMLタグの使い方
9	Webページの作成	: 画像の配置、リンクの設定
10	Webページの作成演習	: サイトの設計
11	Webページの作成演習	: サイトの作成
12	総合課題演習	: 各種集計表の処理
13	総合課題演習	: データの整理と分析
14	応用課題演習	: ソフトの統合利用
15	まとめ	

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

北原俊一・安達一寿・中尾茂子『情報処理の基礎 十文字学園女子大学情報処理共通テキスト』2011 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部専門科目の一つであり、マルチメディア活用 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作1(表の作成と編集)
2	表計算ソフトの基本操作2(数式・関数の利用)
3	表計算ソフトの基本操作3(グラフの作成)
4	表計算ソフトの問題演習1(数式・関数の活用)
5	表計算ソフトの問題演習2(目的に応じたグラフの作成)
6	表計算ソフトの応用操作1(データの並べ替えと抽出)
7	表計算ソフトの応用操作2(データの集計と分析)
8	Webページの作成1(基本的なHTMLタグの使い方)
9	Webページの作成2(画像の配置、リンクの設定)
10	Webページの作成演習1(サイトの設計)
11	Webページの作成演習2(サイトの作成)
12	総合課題演習1(各種集計表の処理)
13	総合課題演習2(データの整理と分析)
14	応用課題演習(ソフトの統合利用)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

- ・表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。
- ・表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。
- ・Webページのしくみを理解する。
- ・基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作（表の作成と編集）
2	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用）
3	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）
4	表計算ソフトの問題演習（数式・関数の活用）
5	表計算ソフトの問題演習（目的に応じたグラフの作成）
6	表計算ソフトの応用操作（データの並べ替えと抽出）
7	表計算ソフトの応用操作（データの集計と分析）
8	Webページの作成（基本的なHTMLタグの使い方）
9	Webページの作成（画像の配置、リンクの設定）
10	Webページの作成演習（サイトの設計）
11	Webページの作成演習（サイトの作成）
12	総合課題演習（各種集計表の処理）
13	総合課題演習（データの整理と分析）
14	応用課題演習（ソフトの統合利用）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作（表の作成と編集）
2	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用）
3	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）
4	表計算ソフトの問題演習（数式・関数の活用）
5	表計算ソフトの問題演習（目的に応じたグラフの作成）
6	表計算ソフトの応用操作（データの並べ替えと抽出）
7	表計算ソフトの応用操作（データの集計と分析）
8	Webページの作成（基本的なHTMLタグの使い方）
9	Webページの作成（画像の配置、リンクの設定）
10	Webページの作成演習（サイトの設計）
11	Webページの作成演習（サイトの作成）
12	総合課題演習（各種集計表の処理）
13	総合課題演習（データの整理と分析）
14	応用課題演習（ソフトの統合利用）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、1年次前期に履修したマルチメディア活用 に続く、コンピュータ演習の授業です。

この講座は、引き続き、Office2007対応のWindows Vistaを使用し、Word、Excel、Power Pointが活用できるように、復習をしながら、さらに多くの技術を身に付けられるように学修していきます。

学修目標は、1年次の半年間の実習で伸ばしたコンピュータの技術をさらにアップさせることにあります。コンピュータを活用し、与えられた課題を自らの力でまとめる力を養う。さらに、ゼミで必要なレポートや卒業論文を作成する際に活用できる、関数や統計や分析をする力を養うことを目標として、技術を伸ばしていきましょう。

内容

1	文書作成(1) 簡単な文書
2	文書作成(2) エクセルの表や図形の貼り付け
3	フォルダー管理の徹底
4	文書作成(3) ワードの活用(ウラワザを学ぶ)
5	エクセル関数(1)
6	エクセル関数(2)
7	エクセルの活用(1)
8	エクセルの活用(2)
9	パソコンでお絵描き(1)
10	パソコンでお絵描き(2)
11	パワーポイントの活用
12	プレゼンテーションとは
13	エクセル統計やエクセルで分析を試みる
14	半期のおさらい
15	まとめ

評価

通常の授業の態度70点 課題70点、学期末のテスト60点、合計が120点以上を合格とする。

その他、ほぼ毎回与えられる課題が提出期限及び要求水準を満たしていることを条件とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しません。 毎回、課題のプリントを配布します。

他に、印刷用紙を用意すること。

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、マルチメディア活用 (= 情報処理演習)の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

新カリキュラム「情報処理演習 」と同時開講です。

内容

全学共通です

1	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: 表の作成と編集
2	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: 数式・関数の利用
3	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作	: グラフの作成
4	表計算ソフト(Microsoft Excel)の問題演習	: 数式・関数の活用
5	表計算ソフト(Microsoft Excel)の問題演習	: 目的に応じたグラフの作成
6	表計算ソフト(Microsoft Excel)の応用操作	: データの並べ替えと抽出
7	表計算ソフト(Microsoft Excel)の応用操作	: データの集計と分析
8	Webページの作成	: 基本的なHTMLタグの使い方
9	Webページの作成	: 画像の配置、リンクの設定
10	Webページの作成演習	: サイトの設計
11	Webページの作成演習	: サイトの作成
12	総合課題演習	: 各種集計表の処理
13	総合課題演習	: データの整理と分析
14	応用課題演習	: ソフトの統合利用
15	まとめ	

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

北原俊一・安達一寿・中尾茂子『情報処理の基礎 十文字学園女子大学情報処理共通テキスト』2011 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、学部専門科目の一つであり、マルチメディア活用 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作1（表の作成と編集）
2	表計算ソフトの基本操作2（数式・関数の利用）
3	表計算ソフトの基本操作3（グラフの作成）
4	表計算ソフトの問題演習1（数式・関数の活用）
5	表計算ソフトの問題演習2（目的に応じたグラフの作成）
6	表計算ソフトの応用操作1（データの並べ替えと抽出）
7	表計算ソフトの応用操作2（データの集計と分析）
8	Webページの作成1（基本的なHTMLタグの使い方）
9	Webページの作成2（画像の配置、リンクの設定）
10	Webページの作成演習1（サイトの設計）
11	Webページの作成演習2（サイトの作成）
12	総合課題演習1（各種集計表の処理）
13	総合課題演習2（データの整理と分析）
14	応用課題演習（ソフトの統合利用）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作1(表の作成と編集)
2	表計算ソフトの基本操作2(数式・関数の利用)
3	表計算ソフトの基本操作3(グラフの作成)
4	表計算ソフトの問題演習1(数式・関数の活用)
5	表計算ソフトの問題演習2(目的に応じたグラフの作成)
6	表計算ソフトの応用操作1(データの並べ替えと抽出)
7	表計算ソフトの応用操作2(データの集計と分析)
8	Webページの作成1(基本的なHTMLタグの使い方)
9	Webページの作成2(画像の配置、リンクの設定)
10	Webページの作成演習1(サイトの設計)
11	Webページの作成演習2(サイトの作成)
12	総合課題演習1(各種集計表の処理)
13	総合課題演習2(データの整理と分析)
14	応用課題演習(ソフトの統合利用)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

【推薦書】授業の中で適宜紹介する。

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	中尾 茂子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学部共通科目の学部専門科目の一つであり、マルチメディア活用 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

- 1．表計算ソフトの基本操作(表の作成と編集)
- 2．表計算ソフトの基本操作(数式・関数の利用)
- 3．表計算ソフトの基本操作(グラフの作成)
- 4．表計算ソフトの問題演習(数式・関数の活用)
- 5．表計算ソフトの問題演習(目的に応じたグラフの作成)
- 6．表計算ソフトの応用操作(データの並べ替えと抽出)
- 7．表計算ソフトの応用操作(データの集計と分析)
- 8．Webページの作成(基本的なHTMLタグの使い方)
- 9．Webページの作成(画像の配置、リンクの設定)
- 10．Webページの作成演習(サイトの設計)
- 11．Webページの作成演習(サイトの作成)
- 12．総合課題演習(各種集計表の処理)
- 13．総合課題演習(データの整理と分析)
- 14．応用課題演習(ソフトの統合利用)
- 15．まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ねらい

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

内容

- 1．表計算ソフトの基本操作（表の作成と編集）
- 2．表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用）
- 3．表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）
- 4．表計算ソフトの問題演習（数式・関数の活用）
- 5．表計算ソフトの問題演習（目的に応じたグラフの作成）
- 6．表計算ソフトの応用操作（データの並べ替えと抽出）
- 7．表計算ソフトの応用操作（データの集計と分析）
- 8．Webページの作成（基本的なHTMLタグの使い方）
- 9．Webページの作成（画像の配置、リンクの設定）
- 10．Webページの作成演習（サイトの設計）
- 11．Webページの作成演習（サイトの作成）
- 12．総合課題演習（各種集計表の処理）
- 13．総合課題演習（データの整理と分析）
- 14．応用課題演習（ソフトの統合利用）
- 15．まとめ

評価

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「情報処理の基礎 - 十文字学園女子大学情報処理基礎共通テキスト - 」 日経BP社

科目名	マルチメディア活用		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの操作方法およびWebページの作成方法について学習する。

学修目標

- ・表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。
- ・表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。
- ・Webページのしくみを理解する。
- ・基本的なHTMLタグを使ってWebページを作成することができる。

内容

1	表計算ソフトの基本操作 1（表の作成と編集）
2	表計算ソフトの基本操作 2（数式・関数の利用）
3	表計算ソフトの基本操作 3（グラフの作成）
4	表計算ソフトの問題演習 1（数式・関数の活用）
5	表計算ソフトの問題演習 2（目的に応じたグラフの作成）
6	表計算ソフトの応用操作 1（データの並べ替えと抽出）
7	表計算ソフトの応用操作 2（データの集計と分析）
8	Webページの作成 1（基本的なHTMLタグの使い方）
9	Webページの作成 2（画像の配置、リンクの設定）
10	Webページの作成演習 1（サイトの設計）
11	Webページの作成演習 2（サイトの作成）
12	総合課題演習 1（各種集計表の処理）
13	総合課題演習 2（データの整理と分析）
14	応用課題演習（ソフトの統合利用）
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	人間生活論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生活とは人間が生きるために行なうあらゆる行動およびその過程である。この総合的な生活を理解するためには、多様なアプローチが必要となる。本科目では、生活にかかわる学際的・現代的課題をとりあげ、多面的で柔軟な生活の理解をめざす。さらには、生活の主体としての人間への理解を深め、専門的知識・技術についての学びの共通基盤の獲得をめざす。

内容

講義の前半は、生活を対象に学ぶために必要な概念を整理する。その上で、後半において、多様な生活主体によって成立する現代社会を理解するために、今日的・具体的テーマを取り上げる。生活の自立・自律の意味を考える契機としたい。

1	生活理解へのアプローチ - 生活を学ぶとは
2	生活の主体 - 生活単位・生活領域
3	生活の過程 - 生活（消費）過程・生産過程・交換過程
4	生活の広がり - 生活時間・生活空間・生活情報
5	生活の手段 - 生活財とサービス・ストックとフロー
6	生活の社会化 - 外部化・商品化・共同化
7	生活の文化 - 生活構造・生活様式・継承と変化
8	生活の自立・自律と共同・協同・協働 - これからの公共私
9	グリーン・ツーリズムと地域振興
10	ふるさと資源とコミュニティ
11	食生活から見た健康・栄養問題
12	食生活から見た現代の社会や環境
13	個人の成長・発達と生活
14	専門職としての学びと自己成長
15	まとめ

評価

ミニテスト（30点）、テーマ別レポート（20点×3）、授業への参加度態度（10点）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：松村祥子・岩田正美・宮本みち子『現代生活論』有斐閣、1988

天野正子『「生活者」とはだれか - 自律的市民像の系譜』中公新書、1996

小原康子『とべ！緑の教室 - 武蔵野市セカンドスクールの挑戦』小学館、2001

林良博・高橋弘・生源寺真一『ふるさと資源の再発見』家の光協会、2005

科目名	人間社会論		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

(1) 人間の社会性について、少しでも理解を深めることをめざす。

(2) 自我の社会性、人間形成における職業活動の意義、豊かな生に不可欠な遊びと文化など、社会的存在としての人間の生の諸相を学ぶ。

内容

1	授業の概要
2	現代人と功利主義
3	幸福と理想
4	人格哲学
5	個人自律と共同性ーカントとヘーゲル
6	職業と人間
7	職業観の変遷
8	仕事の意義と問題
9	専門職と職業倫理
10	現代社会と教養
11	仕事と遊び
12	遊びと解放
13	遊びと文化
14	文化と人間
15	文化と言葉

評価

・ペーパーテストによって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定しない。参考文献を授業の中で適宜紹介する。ここでは一冊、神谷美恵子『存在の重み』みすず書房だけ挙げておく。

科目名	人間共生論		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間が、そもそも共同的存在であること、共に生きる存在であることを理解してもらう。

共に生きるということはどのようなことが、社会的に共に生きること、文化的観点から共に生きること、そして自然と共に生きることについて考えてみる。

同時に、共に生きることを妨げているものについても検討する。

内容

1	授業の概要
2	共同的存在としての人間
3	福祉社会と共生の理念
4	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン
5	人権思想の重要性
6	男と女そして家族
7	異文化との共生
8	グローバル化とローカル文化
9	文化相対主義
10	外国人労働者と人権
11	自然との共生
12	生態系と自然の秩序
13	自然と文明
14	自然と人為
15	まとめー共に生きること

評価

- ・ペーパーテストによって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定しない。参考文献を授業の中で適宜紹介する。

科目名	人間文化論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

テーマ：異界への招待 - ひとの世界をどう認識してきたか

《異界》という切り口から、人間文化について多角的に考察します。

時には理想の楽園として、あるいは不気味な魑魅魍魎の跋扈する空間として、古来より人々はさまざまな形で、《異界》について思い描いてきました。この世ではない、どこか別の場所。そんな所があるのかどうかは科学では証明できませんが、わたしたちはたくさんの空想を知っています。かぐや姫は月世界からやってきました。浦島太郎は龍宮城へ行き、アリスはウサギ穴に落ちて、不思議の世界へでかけていきました。海の彼方にはなにがあるのだろうか？ 前世ってあるの？ 死んだらどうなるの？ 素朴だけど誰もが考える根源的な疑問とともに、《異界》をめぐる空想は育まれてきたのではないのでしょうか。

《異界》のイメージは、それを思う人々の世界観とも、密接な関係があります。時代や社会など、《異界》を軸にさまざまな人々の思いや文化について考察していこうというのが、本講義のテーマです。

五名の講師がそれぞれの視点から、《異界》とそれを取り巻く文化現象についてアプローチしていきます。

内容

以下の通りに15回の講義を行います。

ただし通常講義とゲスト講演との入れ替えが生じる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1	魂のゆくえ 異界と文芸の関係
2	脳内世界地図 異界のイメージ化
3	義経 = チンギス・ハーン伝説 異界と社会
4	古代の夢と予言
5	六条御息所の怨霊
6	ゲスト講演(1)
7	神話・昔話と異界(1) 異界訪問譚
8	神話・昔話と異界(2) 異類婚姻譚
9	ゲスト講演(2)
10	「不思議の国のアリス」の地下世界
11	水木しげるにおける少年時代と異界
12	「ゲゲゲの鬼太郎」の異世界の変容
13	死んだらどうなる？ 地獄と極楽
14	神と仏のメッセージ おみくじ
15	総括

評価

毎回のリアクションペーパー(40%)、学期末試験(60%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書の指定はありません。

毎回授業時にプリントを配布します。

科目名	児童青年期の精神保健		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

科目区分は「精神保健」となりますが、対象が児童・青年期となるため「発達」「児童」「青年期」をキーワードとする科目と関連があります。

科目の概要：

「児童・青年期」という期間は、全ての環境が大きく影響します。未経験の強い刺激が増えるだけでなく、本人たちも意欲的に環境へ関わろうとするため、相乗効果から大きな変化が生まれます。そのため多くのセンセーショナルな問題が起こり、まるで社会現象のように扱われて問題視されます。しかし、この時期の「こころ」への介入・改善は複雑かつ難解なものであると意識されているため、多くの大人は足踏みし、敬遠してしまっています。それら「こころの問題(=精神障害)」をどのように予防し、どのように発見し、どのように治療し、どのように社会へ戻すのか、このようなことを学ぶのが「精神保健」の大切な役目です。多少、聞き苦しい内容もありますが、頑張ってください。

学修目標：

- 1) 「こころの病」に焦点を当て、その背景にある生物学的・心理的・社会的要因を考察する。
- 2) 上記1) についての問題の実体を正しく理解する。
- 3) 精神保健的な考え方を習得する。

内容

講義はテキストの講読を中心に進め、情報を補うためにプリントの配布と板書での補足を行います。15回の前半では精神保健学的な「考え方」を学び、後半では「症例の理解」を進めます。

1	はじめに	オリエンテーション
2	精神保健について考える	心の健康を保つために精神医学と精神衛生を活用する
3	精神保健について考える	社会の制度を利用して児童青年期を守る
4	人間について考える	精神保健が対象とするものをふまえる
5	性格について考える	人の気持ちの説明書を読むとわかること
6	性格について考える	性格を科学的に考えてみる
7	心の病について考える	神経症
8	心の病について考える	人格障害
9	心の病について考える	統合失調症
10	心の病について考える	心身症・気分障害
11	適応について考える	不登校・退却神経症
12	適応について考える	摂食障害
13	発達について考える	自閉性障害
14	発達について考える	注意欠陥多動性障害
15	おわりに	全体のまとめ

評価

講義最終回に行われる“最終評価（筆記試験orレポート）”を評価の中心とします。

講義内容に応じて、重要な局面で“受講レポート”を提出して貰います。これも評価に含みます。 受講態度を多少加味します。

以上の3点を「受講レポート30～40%・最終評価60～70%」で配分して総合評価し、60点以上が合格になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木英鷹 著 『精神保健学 第10版』2012 清風堂書店

【推薦書】松橋有子・高野陽 編著 『新 保育ライブラリ 子どもを知る 精神保健』2009 北大路書房

小林芳郎 編著 『精神保健の理論と実際』2004 保育出版社 493.79/K

池田由子 著 『やさしい精神保健』1993 教育出版

【参考図書】志水 彰・頼藤和寛・水田一郎・岩瀬真生 著 『精神医学への招待 改訂第2版』2005 南山堂

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-学部専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科基礎専門科目の位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的プレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

パワーポイントを使える武器として、活用できるように実践的なスキルを伸ばしつつ、各自のコンテンツを人に伝えるという目線で、わかりやすくプレゼンテーションをおこなうことを学びます。この授業は、参加型の授業で、実習形式で進めていきます。

次のようなことを目標に学修します。

プレゼンテーションの基本的な考え方や技術を理解する。

パワーポイントで、文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックを身につける。

テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。効果的な発表ができる。以上を目指して進めます。

内容

プレゼンテーションを効率的に行うためには、相手に伝える技術が必要です。

「何が言いたいのか」「なぜそれが重要なのか」相手に伝えるためには筋を通す必要があります。

また、短い時間に端的に伝える必要があります。

単純明快なシートの作り方と、話し方全般を、具体的にの3つの作品を実習しながら力を付けていきます。

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションのゴールとは
3	なぜ、プレゼンテーションが必要なのか
4	PCデバイス利用の短所・長所
5	わかりやすさわかりにくさの正体
6	パワーポイント(1) 基本操作
7	パワーポイント(2) グラフ処理・アニメーション基礎
8	パワーポイント(3) アニメーション応用
9	プレゼンテーションのテーマ設定
10	資料の作成(1) 調査活動
11	資料の作成(2) 伝えたいこと確認
12	資料の作成(3) 完成させる
13	プレゼンテーションの実施
14	プレゼンテーションの実施と評価
15	まとめ

評価

毎回の授業ごとに指示する、課題 まとめ 感想 などの提出物が70点(5点×14回)

最終課題or試験が30点 合計得点で評価します。 D<60 C<70 B<80 A (4回以上の欠席は、受講

放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指定します。